

臨床研究支援センター便り

新型コロナウイルス感染症により皆様の仕事、生活に種々の影響が生じているものと思います。当センターにおきましても業務を制限せざるを得ない状況が生じておりますが、皆様のご理解、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

このような状況の中、ニュース等でも薬剤の開発、治験、臨床研究などのキーワードをお聞きになることも多いかと思いますが。今回は、臨床研究に関わる最新のトピックスについてご紹介します。

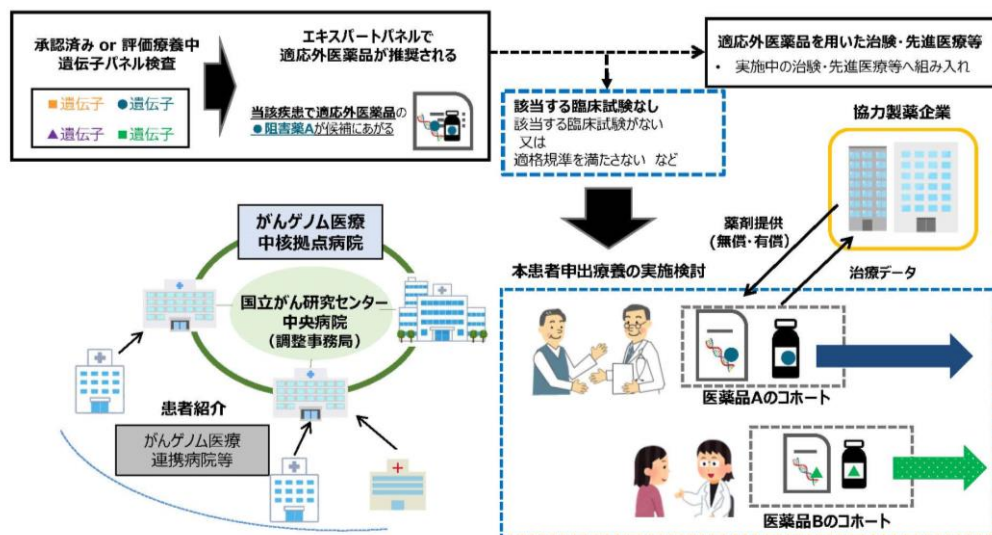
がん遺伝子パネル検査と患者申出療養制度

がん遺伝子パネル検査は、がんの発生に関わる複数の「がん関連遺伝子」を一度に調べる検査で、日本では2019年6月より保険適応となりました。当院は、2019年9月に「がんゲノム医療拠点病院」に指定されており、専門家委員会（エキスパートパネル）で本検査で得られた結果等を詳細に検討し、当該患者に最適な治療法を提供することを目指しています。

現在、がん遺伝子パネル検査の結果により、対応する治療薬の候補が見つかる患者の割合は10～20%であり、その薬物の多くは未承認薬や適応外薬です。

このような状況の中、遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的治療薬に関する臨床研究（下図参照）が患者申出療養制度により開始されています。候補薬が、未承認薬や適応外薬であっても、全国11カ所のがんゲノム中核拠点病院で保険診療と併用して治療を受けることができます。

遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的治療に関する患者申出療養



- 国立がん研究センター中央病院が全体の調整事務局となり、がんゲノム医療中核拠点病院で行う多施設共同研究。
- 賛同が得られた製薬企業からは医薬品の提供を受けて実施する。

新型コロナウイルス感染症の 治療薬やワクチン開発

世界中で感染拡大が急速に進行する中、治療薬やワクチンの開発のニーズは大きく高まっています。

新薬やワクチンの開発はもちろん進められていますが、これらが実際に患者さんのもとへ届けられるのには、とても時間がかかります。そのため、既存薬の転用「ドラッグ・リポジショニング」による治療薬の開発手法による臨床試験も多数進められています。

日本国内においても抗インフルエンザウイルス薬（アビガン）や抗HIV薬（カトレア配合内用液）の有効性と安全性を検討する臨床試験が開始されています。

世界的にはエボラウイルス出血熱治療薬として開発していたレムデシビルの治療が開始されており、日本の医療機関も参加しています。

患者申出療養制度

患者申出療養は、困難な病気と闘う患者の思いに応えるため、先進的な医療について、患者の申出を起点とし、安全性・有効性等を確認しつつ、身近な医療機関で迅速に受けられるようにする制度です。

患者申出療養

<https://www.mhlw.go.jp/moushide/ryouyou/>

パンフレット冊子は外来棟一階総合案内、南病棟通院治療室に設置。

編集・発行



信州大学 | 医学部附属病院
臨床研究支援センター

Shinshu University Hospital, Center for Clinical Research / Shinshu CCR

〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

TEL:0263-37-3389

E-Mail: ccrkenkyu@shinshu-u.ac.jp 担当：山浦